

行動シナリオの実施状況と今後の展開

平成23年3月現在

平成22年度の主な取組(例)

平成23年度以降の主な取組(例)

1. 学術の多様性の確保と卓越性の追求	2. グローバル・キャンパスの形成	3. 社会連携の展開と挑戦 -「知の還元」から「知の共創」へ
<ul style="list-style-type: none">●諸大学との連携体制を構築し、政策提言によって科学研究費の拡充を実現●卓越した研究拠点として、国際高等研究所(TODIAS)を設立(数物連携宇宙研究機構(IPMU)を傘下に)●ウェブサイトを活用した学術情報の発信体制を強化(サイエンスコミュニケーターの採用等)	<ul style="list-style-type: none">●英語で学位の取得できるコースの拡充(大学院で9コースを新設)●海外大学との組織的連携の推進(全学的な学生交流覚書の新規締結、公共政策大学院におけるダブル・ディグリー制の導入等)●3キャンパスに国際センターのオフィスを設置し、ワンストップサービスを充実●秋季卒業式、入学式の英語による実施	<ul style="list-style-type: none">●地域連携、教育、アウトリーチ、広報、産学連携をミッションとした全学ネットワーク(「知の共創プラットフォーム」)の整備に着手●東京大学関連ベンチャーの振興、社会的評価の向上(支援ファンドの組成、当該企業の受賞)●政策ビジョン研究センター、サステイナビリティ学連携研究機構、高齢社会総合研究機構等において、研究成果に基づく提言を実施

1. 学術の多様性の確保と卓越性の追求	2. グローバル・キャンパスの形成	3. 社会連携の展開と挑戦 -「知の還元」から「知の共創」へ
<ul style="list-style-type: none">●諸大学との連携による活動の強化(研究財源の確保や規制緩和等に向けた提言、研究体制のグランドデザインの策定)●国際高等研究所について、さらなる支援制度やIPMUIに続く研究機構等について検討●本郷キャンパスの新しい知の拠点となる新図書館構想の具体化	<ul style="list-style-type: none">●英語による授業、英語で学位の取得できるコースの拡充(教養学部において2コースを新設)●海外留学の積極的な推進(奨学金の充実、学生交流覚書に基づく派遣の拡大、説明会の開催、ウェブサイトの充実等)●国際化拠点整備事業(G30)に採択された大学群の活動の牽引(留学説明会の合同開催(インドネシア、インド、マレーシア)、海外拠点の整備等)	<ul style="list-style-type: none">●「知の共創プラットフォーム」等、社会連携の推進体制の整備●社会連携の拠点となる「伊藤国際学術研究センター」の竣工●総合研究博物館における「知の回廊」計画の検討(学術標本を通して先端的研究現場を観覧可能に)●ソーシャルメディアによる情報発信

4. 「タフな東大生」の育成	5. 教員の教育力の向上、活力の維持	6. プロフェッショナルとしての職員の養成
<ul style="list-style-type: none">●全学部長の参加する教育運営委員会の下、全学的な教育課題の総点検の実施●女子学生確保の取組の強化(女子向けの説明会の開催、大学案内の作成、本学女子学生の母校派遣等)●スペシャル・イングリッシュ・レッスンの全学展開の開始●「タフな東大生」を掲げたHPを開設し、学生の主体的な学習を促進	<ul style="list-style-type: none">●教育力向上の要となる教育企画室の体制強化、大学総合教育研究センターの機能の見直しに向けた検討●女性研究者の雇用促進に向けた重点的支援●若手研究者ポスト確保に向けた新たな人事制度の枠組みについて検討●全教員の教育研究業績をはじめとする教育情報の全学的な公表に向けた準備	<ul style="list-style-type: none">●「人事、組織、業務の改善プラン」の見直しの開始、職員アンケートの実施による課題の総括●メンタルヘルスクア体制整備のための、従業員支援プログラム(EAP)の導入●年齢・性別に関係なく、有能な若手職員を上位職に昇進できる制度の検討開始

4. 「タフな東大生」の育成	5. 教員の教育力の向上、活力の維持	6. プロフェッショナルとしての職員の養成
<ul style="list-style-type: none">●国際的なコミュニケーション能力の育成、交流の機会の充実(英語教育の強化、国際短期プログラムの整備等)●多様で優秀な学生を受け入れ、多元的に評価する教育体制の整備(入試や進学振分け制度の改善等)●卓越した学生が、早期に学問研究の先端に触れ、高度な学習ができるシステムの検討●将来的な入学時期の在り方についての検討	<ul style="list-style-type: none">●ファカルティ・ディベロプメント(FD)の推進体制・環境の整備(ファカルティ・ハンドブックの作成等)●女性教員比率の向上に関する総合的な取組みの在り方について検討●優秀な若手研究者のポスト確保及び人材流動性の向上のため「特例教授ポスト」の運用を開始。併せて若手研究者の採用(年俸制助教)を促進	<ul style="list-style-type: none">●国際化に対応した事務体制の整備・意識改革(職員の語学力向上に向けたTOEICの有効活用等)●高度な研究支援人材の育成(リサーチ・アドミニストレーター)の制度化の検討●年功序列の昇進制度を見直し、有能な若手職員を抜擢する仕組みを導入

7. 卒業生との緊密なネットワークの形成	8. 経営の機動性向上と基盤強化	9. ガバナンス、コンプライアンスの強化と環境安全の確保
<ul style="list-style-type: none">●卒業生向けの生涯学習プログラム(「グレーター東大塾」、「東大ワールドカフェ」)の新規実施●外国人同窓生のネットワークづくりの一環として「外国人卒業生・留学生の集い」を実施●卒業生が中心となり学生に情報提供を行う「海外大学院留学説明会」を開催	<ul style="list-style-type: none">●キャンパスデザインコード、キャンパス計画要項の策定・施行●旅費業務外部委託の全学展開●新たな調達方式(リバースオークション)を試行、全学展開を検討●全学的CO2削減に向けた運用の改善の取組	<ul style="list-style-type: none">●全学委員会の整理・合理化●事務組織の見直しに向けた検討の推進●海外渡航危機管理ガイドブックの作成●法務課を設置し、コンプライアンス基本規則等を整備

7. 卒業生との緊密なネットワークの形成	8. 経営の機動性向上と基盤強化	9. ガバナンス、コンプライアンスの強化と環境安全の確保
<ul style="list-style-type: none">●卒業生による奨学金の創設と新たな取組の試行(留学生の国内企業での研修受入、東大生の海外企業での研修派遣)●卒業生に向けた「グレーター東大塾」プログラムの充実、公開講座等のコンテンツの有効活用●SNS(フェイスブック等)を活用した卒業生コミュニティの立ち上げ、外国人同窓生等への情報配信の充実	<ul style="list-style-type: none">●全学的な課題等に対して、機動的に取組むための事務組織の見直し・再編(社会連携部の設置等)●情報システムについて、現状分析ツールを活用して、業務プロセスの見える化を実施●「東大サステイナブルキャンパスプロジェクト」(TSCP)に基づき、集中的な設備更新を行い、CO₂排出量削減を推進	<ul style="list-style-type: none">●新たなコンプライアンス推進体制の確立(e-learningを活用した、コンプライアンス教育や安全教育・講習の充実等)●規則を含む学内文書の英文化に関する基本方針の策定と実行●危機管理のマニュアル整備